

㊸臨床検査医学（検査部）

1. 研修目標

正しい臨床診断を得るためには、問診や診察所見のみならず、さまざまな患者試料に基づく臨床検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。異常値が出る病態生理学的機序を理解することにより、検査結果を通してさまざまな疾患に対応できる内科的診断能力を養う。

近年の臨床検査機器の進歩はめざましいが、検体の保存状態や機器の特性を考慮しないデータの過信は医療過誤の危険性をはらんでいる。臨床検査の方法や試料の特殊性を熟知することにより、潜在する誤ったデータを看破できる能力を養う。

病理診断に興味を持つ場合は、病理組織検体の取り扱い方、病理標本作成技術、特殊染色の適応の理解、正しい病理組織所見の解釈などを学ぶことができる。

2. 研修指導体制

検査部内の全ての検査室にはそれぞれを専門とする教官（臨床検査専門医）が配置されている。日々出てくる異常値や検査上の問題点について指導医と討論し、臨床の場にフィードバックすることにより疑問点を解決する。

各検査室の主任技師はその分野のエキスペートであり、検査の原理や方法に精通しており、データが出る機序についての理解を深めることができる。

3. 研修指導責任者 上平 憲

4. 研修内容

- (1) 病棟、外来、手術場その他の部所からの検査オーダーリングから、検査部への検体の搬送、検体の処理、実際の検査及びその判読、検査結果の送付に至る一連のシステムを研修する。
- (2) 検査部の各部所をローテイトすることにより、各種検査法の原理を理解するとともに、検査機器の特性や手技上の問題点、試料保存上の問題点等を研修する。
- (3) 異常値が出る病態生理学的機序を理解し、検査データを総合的に判断する能力を身につける。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- (1) 患者・医師関係
検査内容について患者に説明することができ、また、同意を得ることができる。
検体の取り扱いにおける守秘義務やプライバシーについての配慮ができる。
- (2) チーム医療
他の医療従事者とのコミュニケーションがとれ、検査データをもとにした診断のための討論ができる。
- (3) 問題対応能力
得られた検査結果から、次にどのような検査が必要かを指摘できる。
現在の検査法の疑問点や問題点から、新しい検査法開発のための積極的姿勢を身につける。
- (4) 安全管理
臨床検査に潜む危険性を把握し、医療事故防止対策や院内感染対策を理解して適切に行動できる。
臨床検査における精度管理の重要性を理解している。
- (5) 診療計画
さまざまな臨床検査の中から、個々の患者に必要な不可欠な検査法を指摘し、選択することができる。
- (6) 医療の社会性

医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。

5-2 経験目標

- (1) 血液検査
 - ①血球計数器によって得られる結果の特殊性や問題点を理解する。
 - ②正常細胞及び異常細胞の形態診断ができる。
 - ③血液凝固及び線溶検査の結果を解釈できる。
- (2) 生化学検査
 - ①検査機器の原理と問題点を理解する。
 - ②各種臓器の代謝経路から、臓器障害のマーカーとなるさまざまな異常値がいかなる機序によってもたらされるかを理解し、結果を診断に結びつけることができる。
- (3) 免疫血清学検査
 - ①免疫電気泳動法、免疫拡散法、EIA 法、補体価測定法等の免疫検査の問題点を理解し、結果を判読できる。
- (4) 微生物検査
 - ①起炎菌の決定や、分類同定、薬剤感受性テストがどのようにして行われ、また、どのような問題点があるのかを理解する。
 - ②院内感染症に対する対策がどのように行われているかを理解する。
 - ③起炎菌を推測できる能力を養い、最も効果的な抗生剤の使用方法を修得する。
- (5) 生理機能検査
 - ①脳波、心電図、肺機能及び血液ガス測定法を理解し、結果を解釈できる。
- (6) 遺伝子検査
 - ①サザンブロット法による HTLV-I 組み込みの証明、PCR 法による好酸菌の同定のほか、遺伝子診断に必要な技術を修得し、その問題点を理解する。
 - ②どのような疾患または病態で遺伝子診断が威力を発揮するのかを判断できる。
- (7) 細胞表面マーカー検査
 - ①フローサイトメーターによる正常リンパ球サブセットや白血病細胞等の腫瘍細胞の表面マーカーを解釈できる。
 - ②診断に結びつく最も効果的な抗体の選択ができる。

